

# クラウドマスターデータ管理の正しい進め方



すべてを備えた  
包括的な  
ソリューション

**All in One** — 必要なすべての機能を提供。  
データカタログ、データ統合、データ品質、データのエンリッチ化、BPM (ビジネスプロセスマネジメント) のすべてを備えた、使いやすい単一のクラウドMDMソリューションを選ぶ。

**自信を持って価値を生み出す。**  
インフラストラクチャの展開、プロビジョニング、管理に費やす時間とコストを減らし、より多くの時間を使って業務上の価値を創出。



すべてはイノベーション  
のために



小規模の短期的な  
成果を積み上げる

**一気に呵成に進めない。**  
段階的なアプローチにより、小規模の重要なイニシアチブで成功体験を重ねて実証していきながら、全社規模の複雑なデータの課題を解消。

**常に接続している環境。**  
エコシステム全体を容易に接続するクラウドMDMソリューションで、業務アプリケーションと分析アプリケーションに信頼できるデータをリアルタイムに提供。



データへのアクセス  
環境を確立



人工知能と機械学習

**高速性と拡張性。**  
人工知能 (AI) と機械学習 (ML) によりデータスチュワードシップ (データ管理/案内標準) を自動化して、実用的なインサイトを業務担当者に提供し、よりインテリジェントなデータ管理プロセスを実現。

**リスクを軽減。**  
保存しているデータと移動しているデータの両方にマスターデータ管理とセキュリティを適用して、「パーティー」マスターデータドメイン内の個人情報 (PII) を保護。



事後対応型の  
データセキュリティ  
では不十分



将来のロードマップに  
フォーカス

**常に進化。**  
マスターデータへのニーズが最初のドメインから他のドメインへと広がっていくとともにビジネスが進化していく中で、出現する将来のビジネス要件を常に念頭に置いておくこと。

**アーキテクチャ間の移行。**  
迅速な展開と強化が可能なマイクロサービスベースにしたアーキテクチャで、異なるインフラストラクチャプロバイダー間の移行ができる拡張性に優れたソリューションを選ぶこと。



モダン  
アーキテクチャ

## クラウドMDMソリューションの選択時に 明確にしておくべき8つのポイント

市場には数多くのクラウドMDMソリューションが出回っていますが、その機能と能力は千差万別です。以下のポイントを明確にすることで、それぞれのニーズに最適なソリューションを判断できます。

1. そのソリューションプロバイダーは、どのようなBoB (ベストオブブリード) 機能を提供しているか?
2. データ品質機能とデータセキュリティ機能を提供しているか?
3. データの統合、クレンジング、標準化、検証、エンリッチ化を容易に実行できるか?
4. データガバナンス機能とメタデータカタログ機能を備えているか?
5. ビジネスニーズに合わせてソリューションを進化および適応させていくことは可能か?
6. マイクロサービスベースのアーキテクチャを採用しているか?
7. 需要の急増に合わせて自動的に拡張していくことができるか?
8. ソリューションのイノベーション (革新機能) の質と提供のスピードは?

データの価値を最大限に引き出す方法とは?  
クラウドMDMがビジネスにもたらす効果をご覧ください。

[詳細はこちら](#)